

昭和56年度 地質調査所研究発表会について

企画室
Research Planning Office

地質調査所では 所員の研究発表の一環として 年間約6回の公開研究発表会を開催しています。本年も 第147回から第152回までの年度計画が 運営委員会で検討され およその日程と内容が次のように企画されました。

第147回 5月14日

テーマ：“リソスフェア探査開発計画”に向けて（その1）
——サブダクションと堆積盆地の形成と発展

1984年度から計画されている上記標題の国際的研究計画に向けて 地質調査所としてどのように貢献できるかを中心に 次の第148回の2回に分けて 各方面からテーマが提案されます。この回ではエネルギー・鉱物資源や環境保全の上で 常に探査上の基本となる 堆積盆地を対象に その形成と発展が地球深部の造構運動とどのように関連しているかについての話題提供がなされます。主な演題として 「地向斜堆積物に関する問題点」 「地熱と堆積盆地の深部構造」 「新第三紀—第四紀の堆積盆地の形成機構」 「関東堆積盆地の深部構造」などがとりあげられます。（開催済み）

第148回 6月18日

テーマ：“リソスフェア探査開発計画”に向けて（その2）
——島弧と地殻の地球化学

（その1）（第147回）ではサブダクションが地表部にもたらす 物理的な側面としての地質構造が研究対象とされていましたが この回では 地殻の化学的な側面としての特性のあらわれ方に対象が当てられます。主な話題としては「鉍鉛 硫黄の同位体進化」 「金属鉍床の産出重金属元素比」 「古期火成岩類のSr同位体」 「新生代火山岩類の地球化学」 「東北日本新生代火成岩類の帯状配列」 「第四紀火山岩類の酸素同位体」などがとりあげられます。（開催済み）

第149回 7月8日

テーマ：最近の地震予知研究

日本における地震予知に関する研究の最新の成果を中心に特に地質調査所の役割りと研究内容を報告します。予定されている主な話題としては 「発掘調査による活断層研究の現況」 「丹那断層の発掘調査」 「活断層の変位運動の観測」 「北海道西部の活構造」 「地震断層の形成条件」 「岩石破壊実験と地震」 「αトラック法による活断層調査」 「東海地域の地下水中ラドン濃度の変動要因」 「地震前後の地下水温・水質の変化」などです。所外からは岡田篤正氏（愛知県立大）の参加が予定されています。（開催済み）

第150回 11月

テーマ：「日本の火山」（仮題）

現在地質調査所発行の200万分の1「日本の火山」の第2版を印刷中ですが それを機会に我が国の火山や 火山層序 火山岩石学に関する研究成果を紹介し 最近支笏湖周辺で行った樽前火山の物理探査のデータを加えてその成果を報告する予定です。これらから火山活動の実態を解明する上での問題点や噴火の予知 火山エネルギーの有効利用など 応用面におけるいくつかの課題についても話題を紹介し 議論を行う予定です。

第151回 昭和57年1月

テーマ：新しい分析技術・探査技術について（仮題）

地質調査所が筑波研究学園都市へ移転して来てから早や1年半の月日がたとうとしていますが この移転を機会に 新しい分析機器や探査機などが多数設置されました。最近の高度なエレクトロニクス技術の応用などで機器の調整も複雑なものとなっていますが ようやく大半のものは稼動をはじめ 次々と新しいデータを蓄積しつつあります。この回では最新の機器の原理と応用例を紹介し このような成果が地球科学研究の上に及ぼす効果について話題を提供する予定です。主な話題としては「液体シンチレーションカウンターによる¹⁴C年代測定」 「新製固体用質量分析計による同位体比の精密測定と新分野への応用」 「浅層反射法の現況」 「新しい電磁探査法とその応用」などが予定されています。

第152回 昭和57年3月

テーマ：個人発表集

研究発表会の内容は 地質調査所月報に講演要旨として掲載されますが 聴講御希望の方へは 下記事務局宛に請求していただければ プログラムをお送りします。各回とも 日程内容等の最終決定は 開催日の約1か月前になります。

〒305 茨城県筑波郡谷田部町東一丁目1番3号

地質調査所総務部業務課
研究発表会運営委員会事務局

Tel. (0298)54-3519

交通 上野発 常磐線 約60分「荒川沖」駅下車

駅前から筑波大中央バス乗車「並木2丁目」下車 徒歩約5分

人事異動

地質調査所では4月1日付で 次のとおり人事異動が行われました。

記		
(氏名)	(新)	(旧)
曾我部正敏	辞職	燃料部長
猪木 幸男	文部省出向	地質部長
佐藤 博之	地質部長	地質部岩石地質課長
佐藤 良昭	燃料部長	燃料部石炭課長

昭和56年4月

工業技術院